



第五十六回全国子ども会育成中央会議・研究大会

「これからの子ども会く子どもたちと地域の未来に向けて」

新潟県子ども会育成連合会 副会長 岡田 政枝

日本新三大夜景都市に認定された北海道札幌市において、第五十六回全国子ども会育成中央会議・研究大会が十月二十七日～二十九日に開催されました。

開会式では、全国子ども会連合会的美田会長様の挨拶があり、次に来賓の方々から祝辞をいただきました。次に表彰式が行われ、本県からは指導者・育成者の部で長岡市の小川真美子さんと新発田市の豊岡克弘さんが受賞されました。

今大会のテーマは、「これからの子ども会く子どもたちと地域の未来に向けて」でした。記念講演では、「子どもの心をのぞいてみればく地域医療から見る問題点と対策」と題し、北海道札幌市生まれの精神科医、中塚尚子様から講演をいただきました。次のような内容でした。

一 穂別で感じることは、特に若い世代や子どもほど相違点より共通点の方が多い。

二 「子ども時代」とは何なのか。大人でもない赤ちゃんでもない「親や先生とは違う自分を作る」時期、「何世代と出会い、交わり、自分を見つめる」時期、「子ども時代は危機の時期でもある」

三 ネット・スマホが子どもも環境を激変させた。常時、接続が当たり前で時間も距離も関係ない。子ども心理とネット



トコミュニケーション。世界が広がり、莫大な情報に触れ、自分も発信者になれる。相手がどんな人かわからない、いろいろな被害・犯罪に巻き込まれる危険性がある。見ない気にしないというわけにはいかない。

四 大人ができることは何か。何かあったら相談できる関係づくり、相談があった時には叱らない、決めつけない。子どもの方が詳しいこともある。共に悩み、考える、続けて支えていくという姿勢を。

以上のような内容を、豊富な経験を活かし、現職総合診療医として地域医療に取り組んでいる精神科医として話されました。

二日目は、テーマ別に次の九つの分科会に分かれて研究協議が行われました。

- 第一分科会は「今、求められる子ども会実践」
- 第二分科会は「地域とつながる子ども会活動」
- 第三分科会は、「子どもの成長と子ども会活動」
- 第四分科会は、「低年齢期（幼児・低学年）を対象とした子ども会活動」
- 第五分科会は、「単位子ども会への効果的な支援」
- 第六分科会は、「学校や行政・地域組織との効果的な連携」
- 第七分科会は、「指導者・育成者の育成と拡充」
- 第八分科会は、「リーダー育成（ユースを含む）」と活躍する仕組み作り」
- 第九分科会は、「ICTを活用した広報活動」でした。

今後の予定

- 県子連総会・研修会（湯沢町公民館）
五月十九日（日）
- 第一回理事会（新潟市東区アライザ）
六月二日（日）
- 県子連だより 第一四四号発行
六月七日（金）
- 関プロ総会（山梨：甲府市総合市民会館）
六月二十三日（日）～二十四日（月）
- 第一回関プロ推進研究会（東京：全子連ビル）
六月二十九日（土）～三十日（日）
- 第一回JL中級研修会（国立妙高青少年自然の家）
七月六日（土）～七日（日）
- 新潟県社会教育懇話会総会（県立生涯学習推進センター）
七月十二日（金）
- 関プロJL参加者説明会（柏崎市民プラザ）
七月二十八日（日）

私は、第五分科会に参加しました。事例発表を聞き、その発表を参考に他県の方々と意見交換を行い勉強になりました。全体会では、各分科会の報告が行われました。続いて、閉会式では、大会旗が次期開催地区の沖縄県に引き継がれました。

最後に、この大会を通し、多くのことを学ばせていただきました。又、他県の関係者と交流が出たことに感謝し、開催地の方々・関係者の皆様により感謝申し上げます。これからも中央会議・研究大会がますます発展することを祈念し、報告いたします。



ウェルビーイングにつながる 体験活動を全ての子供に！

国立妙高青少年自然の家 所長 小林 朋広

秋に開催した全国青少年体験活動推進フォーラムでは、「ウェルビーイングを実現させる体験活動」全ての子供たちに「〜」をテーマに、鼎談と分科会で、夢や希望、感動を与える体験活動について話し合いました。

当日「リアルな体験活動は子供に自信をつけ、自分や集団を見直すきっかけとなる」「自然と向き合い、自ら乗り越えることで、次への挑戦意欲が増し、結果的に主体的になれる」「体験を続けると、自分だけでなく、他者と共に喜んだり、他者の努力を知り尊敬したりできるようになる」「等、講師や参加者の皆様から心に響く言葉を頂きました。体験をするその瞬間の感動も大切ですが、今までできなかったことができるようになったり、今まで気付けなかったことに気付けるようになったりすることも、体験活動のもつ大きな意義です。

子供が幸せな人生を送るために、私たち大人は、もつとリアルな体験活動を提供しなければなりません。全



ての子供に、しかも何度でもです。単に体験させるのではなく、明確な目標を定め、子供の実態に応じた体験活動を企画しなければなりませんし、体験や考える時間を十分設け、具体例を出したり、指導や支援、助言についても良い按配にしたりすることも必要です。

全ての子供に意義ある体験活動を提供するためには、公教育を担う学校で、カリキュラムに体験活動を位置付けていただくことが重要です。ただ、学校も多忙を極めていますので、地域や社会教育施設と連携して提供しやすい工夫をすべきです。また、子供会や青少年教育団体、社会教育行政、そして家庭等、学校以外でも子供の体験活動を提供することも必要です。国立青少年教育振興機構の子どもゆめ基金も活用できます。誰一人残さず体験ができるよう私たち大人がつなぐ

全子連表彰を受賞して

生きる力としなやかな精神を

小川真美子

この度、第五十六回全国子ども会育成中央会議・研究大会において、個人表彰をいただき感慨深いおもいです。これもひとえに、ご指導いただいた先輩、共に考え切磋琢磨して来たよき仲間のお陰だと感謝申し上げます。

思い返せば、子ども会で初めて一泊のキャンプをし、市子連のユース連が盛り上げてくれて子供達は大喜びでした。運営方法などを教わり初めての事だらけでした。単子向けの研修に参加して作ったゲームが採用され、忘年会に誘われそのまま市子連に入会。何よりも子どもに真つすぐ一生懸命な方達の中に居る居心地の良さ

に惹かれ、それから三十五年以上関わると思いませんでした。少子化の波にコロナ禍が加速をかけ子ども会離れが進む昨今ですが、子ども会の意義が見直されて来ています。社会全体がバーチャル化され、生身の人間や物と対峙しなくて済む事が増え、便利になる一方でリアルを知らない故に起こる悲劇や誹謗中傷。人の心の痛みや体の痛みがわからないままに

成長してしまいたい社会に出たときに起きてしまう摩擦。地球規模で大きな変化が起きてこの時代、これからの生きる子供達には今こそ【生きる力】が必要になっていると思います。

それには便利ではない自然の中に身を投じ、自然の雄大さ豊かさ

と怖さを感じ、血の通う人と協力し考え、自分を発見していく。そういう体験が出来る子ども会、地域活動が大切であることを子育て世代に強く発信していかなければと思います。また、市子連、県子連も次世代の担い手を育てていかなければならない時期にきていると思えます。もつと子育て現役世代の声を反映して行かなければならないなど問題は山積みですが、微力ながら今少し子供育成に関わって行けたらと思います。



子どもの遊びのひろばin胎内

期日 令和五年十一月十九日(日)
会場 胎内市産業文化会館

県子連主催の子どもの遊びのひろばは、平成十七年から毎年上・中・下越地区を巡回しながら開催してきました。今年度で四十一回目を数えます。

これは、平成十六年に県内を襲つ

た新潟豪雨や中越大震災からの復興を願い「被災地の子どもたちが元気に遊び、笑顔が増えますように」との願を込めて始めたものです。令和二年度は新型コロナウイルスのため実施できませんでしたが、それ以外は毎年実施しています。今年度は、胎内市教育委員会との共催で、オープニングセレモニーに板額夢灯笼(演舞)が披露され盛況でした。



各地の子ども会等(二条市・柏崎市・加茂市・長岡市・妙高市・新発田市・胎内市・下越森林管理署・下越地区)でした。会場に遊びに来てくれた人は、親子連れやご家族での参加が多く、明るい笑顔が多く見られました。

第二回ジュニア・リーダー中級研修会に参加して

長岡市ジュニアリーダー 玉井 絢菜

私は、二回目の参加でした。長岡市のジュニアリーダーしかいませんでしたが沢山のことを学べました。そして中級研修会で初となる胎内の新潟県少年自然の家でやることとなり、少し緊張していました。

特に心に残ったことが三つあります。

一つ目は、野外炊飯です。野外炊飯は何度かやったことがあるけど、きちんと教えてもらったのはこれが初めてでした。なので火の管理や米の水の量などたくさんことを教えてもらったのでとても印象深かったです。この知識をジュニアリーダー



の活動に生かしていきたいです。

二つ目は、ウォークラリーです。チーム対こうだったけど、他のチームも助けあい、チームも助けあいながらゴールできたのでよかったです。そして、いつも一緒に活動しているメンバーの意外な一面も見えてきたのでとてもよかったです。

三つ目は、レクリエーションです。キャンプファイヤーでいつもやっているけど思いだせないものもあつたりして、知ってるつもりで知らなかったものが多かったです。実際にレクをやってみたりして、レクについてよく知れたのでいい経験になりました。これを今後の活動に生かしていきたいです。

自分自身中級研修に参加するのはあと一〜二回だろうけど、一回一回を大切に中級研修に参加し、今後の活動に生かしていきたいです。

結成五十周年を迎えて

加茂市青少年育成団体連絡協議会 会長 桑原 宏幸



加茂市青少年育成団体連絡協議会は五十周年を迎えることができました。この式典を実現してくれた当会の仲間たちに本当に心から感謝しております。

これまで長年の間、子どもの健全育成の実現に向けて多大なるご尽力お力添えを頂きました全ての仲間と先輩に心からの敬意と感謝を申し上げます。そして、子どもたちの未来のため

令和二年度からコロナ禍の影響だけでなく環境の変化、そして、加茂市の各地区育成会の変化により、例年行ってきた事業が実施できないことが続きました。今、当会に求められていることは何か、どのようなこととならできるのか、理事会で話し合い、活動内容を考えてきました。当会の事業の参加者には、時間を忘れて心から楽しんでいるご自身を見つ



アトラクション よさこい「KAMO 坂 21」



記念講演会

令和5年度 加茂市青少年育成団体連絡協議会 加入団体

小学校区	育成会名
南 小	上3区若竹会
	秋房育成会
	若宮町青少年育成会
	八幡青少年育成会
加茂小	岡ノ町育成会
	神明町二丁目子ども育成会
	青海町二丁目育成会
	赤谷区青少年保護育成会
	陣ヶ峰育成会
	ひまわり育成会
石川小	寿町育成会
	大郷町青少年健全育成会
	高須町育成会
	新栄町育成会
	幸町育成会
	番田青少年育成会



講師 田澤 葉月様

けていただきたい。そして、明るい未来に繋がる体験を増やしてもらいたい。そのように強く願っております。多くの人は、体験することで自分を知ることができます。自分ができるような時に喜びの感情を感じるのか、あるいは、幸せの感情を感じるのか知っていますか？ それは、人それぞれ違う。今まで生きてきた人

生の中で、何を見たのか、何を聞いたのか、何を感じたのか、それらが大きな影響を与えます。令和三年度から当会の十三代会長となり、子どもの健全育成、成長に貢献できることを目指し、理事と一緒にこれまで活動を続けて参りました。皆様にどれだけお役に立てたのか、どれだけ貢献できたのかは分かりませんが、この苦しい環境下、悲観せずに常にできることを考えて、新しいことに挑戦しながら、何よりもワクワクする未来を想い描きながら、これまで三年間活動して参りました。結成五十周年の節目を機に、私たちの心をしっかりと繋ぎ、絆を結び、希望溢れる未来へとまた一歩踏み出しましょう。

中越地区

小栗山のホタル活動

見附市 小栗山子ども会

五年 三沢 颯太

ぼくが住んでいる小栗山には、ホタルがいます。

小栗山の子も会では、ホタルにかかわる活動をしています。

一つ目はカワニナまきです。カワニナは、ホタルの幼虫の餌になるまき貝です。子ども会で

田んぼの水路からカワニナを集めて、ホタルが生息する山の水路にまきます。



二つ目はホタルの勉強と観察会です。集落センターでホタルの勉強をした後に、ホタルを見に行きます。小栗山には二種類のホタルがいます。ゲンジボタルとヘイケボタルです。ゲンジボタルは体が

大きく、強く光り川の近くで高く飛んでいます。

ヘイケボタルは体が小さく、田んぼで集団で光ります。一匹の光はゲンジボタルと比べると強くはないですが、仲間と合わせて一緒に光るところが僕にはきれいだと思います。

勉強会で平成十六年の水害により、小栗山のホタルがほとんどいなくなっていました。町内で協力してホタルを復活させたと聞きまして、それから町内でホタルを守る活動を続けているそうです。

これからも小栗山のホタルがたくさん飛ぶように、子ども会のみならず協力してホタルを守る活動を続けていきたいです。みなさんもぜひ、きれいなホタルを見に来てください。



下越地区

木工体験

弥彦村 新町下地区子ども会

四年 荒木 瑛迅

ぼくは、夏休みに地区子供会の行事で、弥彦村の文化会館で木工体験をしました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一、二年生のときはできませんでしたが、新町下子供会では、毎年夏休みに、せい作をしています。

前回は、岩室でガラス玉作りをしました。

今回は、木で小物入れを作りました。手順をしようかいます。

まずは、約十種類の木の中から側面と底の材料の木を選びました。



ぼくは、一種類の木で作りましたが、何種類かの木を使って作った子もいました。

次に、のりを使って底と側面の木をくっつけました。

しっかりとくっつくように輪ゴムで固定して二十分ぐらい待ちました。

最後に、のりが固まったら、一つの箱に八本の釘を打ちます。

釘打ちは図画工作の時間にもしたことがあったので、上手にできました。

そのあと、ヤスリがけをして、ハンダゴテで自由に絵や文字を書いたらできあがりです。

出来上がった小物入れをみんなで見せ合いました。

みんな上手だなあと思いました。

ハンダゴテを使うのは、はじめてで、絵を描くのがちよつと失敗しちゃったけど楽しかったです。また次回もみんなで作るのがやりたいなあと思いました。



佐渡地区

楽しかった夏祭り

佐渡市舟下子ども会

三年 熊谷 将

去年までは、コロナのえいきょうで地いきの夏祭りは中止になっていました。ぼくは、三年生ではじめて夏祭りにさんかしました。祭りにはおぼんで帰って来ている人たちもたくさんいました。ぼく



は、お母さんお兄ちゃん、いとこの小学五年生の男の子といっしょにさんかしました。会場に行くと、地いきの人からジュースやおかしをいただきます。いつもいっしょに登校している友だちと遊んでいると大好きなおに太こが始まりました。保育園のころは、おにがこわくてにげまわっていましたが、今は平気で

す。白おにと黒おにのおどりは、とても上手でかっこよかったです。太この音は、おなかにひびくようで不思議な感じがしました。おに太こはあつという間に終わり、花火の時間になりました。手持ち花火もきれいでしたが、打ち上げ花火はカラフルで力があつてもり上がりました。もつともつと見たいと思いましたが、あつという間に終わってしまいました。来年はもつとたくさん打ち上げ花火が見れたらいいなと思いました。

上越地区

はじめてのクリスマス会

板倉区緑ヶ丘子ども会

二年 明地 春人



は、さい後の風船が外に出なくて良かったです。さい後にビンゴゲームをしまし

ぼくたちのクリスマス会では、さいしょにイラスト伝言ゲームをしました。冬のイラストをかき、それを次の人に伝えるゲームです。ぼくは、前の人の絵が「うさぎ」に見えたので「うさぎ」の絵をかきましたが、正かいは、「トナカイ」でした。みんなで大わらいました。楽しかったのでまたやりたいです。次にわなげをしました。一人三回なげて合計三十点をとりました。高とく点がとれてうれしかったです。わなげのコツは、あんまり力を入れすぎないことです。そしてバルーンタワーゲームをしました。つつの中に、入っている風船を早く外に出したチームが勝ちです。ぼくたちのチームで

た。ぼくは、いっぱいリーチになつたのでワクワドキドキしました。今回のクリスマス会は、六年生が考えてくれました。ぼくが六年生になったら今回のようにおもしろいゲームを考えたいです。去年は、コロナウイルスでクリスマス会がありませんでした。来年もまたクリスマス会ができるといいな。



た。ぼくは、いっぱいリーチになつたのでワクワドキドキしました。今回のクリスマス

編集後記

○新年早々の能登半島地震。県内での液化化現象など大きな被害が報告されており。一日も早い復旧復興をお祈りいたします。
○原稿をお寄せいただきました皆様に感謝申し上げます。
(文責・板垣)

【編集発行】

一般社団法人
新潟県子ども会育成連合会
〒九五一-八三三
新潟市中央区白山浦一三〇〇
電話 〇二五-二三〇五二九八
FAX 〇二五-二三〇五二九二